

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	11.28(日)	山直南	発言者A	<p>山直南小学校出身。これまで人生を過ごしてこられたのは、この学校で学び、立派な先生方に指導を受け、積川町～包近町までの仲間と一緒に、楽しい学校生活を送ってきたことが基本にある。その山直南小学校を廃校にするという無茶な計画にどうしても賛成できない。岸和田市は来年100周年ということだが、山直南小学校は再来年で創立150周年を迎える。</p> <p>岸和田市における知育・徳育・体育の中で、知育に関して、文科省が実施するテストの結果が非常に悪いと聞く。手元に、ある会派が発出した資料があるが、堺市以南の9市の中で、岸和田市は国語・算数いずれも第9位とある。この結果をどう分析し、反省しているのか。児童生徒が悪いのか、あるいは教え方の問題なのか、また学校規模の問題なのか。例えば適正規模の学校はよくできるが、山直南小学校や山滝小学校のような、不適正な規模の学校が足を引っ張っているのか。データを教えていただきたい。</p> <p>また、単学級ではクラス替えができないので、いじめ等にも悪影響があるとしているが、本当か。子どもの数が少なければ、子ども間のコミュニケーションが取れ、徳育に効果的なのではないか。小規模校の悪い面が、具体的にどれほど出ているのか。</p> <p>里山や、久米田池に象徴される池、牛滝川といった、豊かな自然環境の中で、伸び伸びと教育を受けられる環境である山直南小学校を廃校にせずとも、教員の情熱・愛情によって子どもたちを育むことができるのではないか。</p>	<p>岸和田市小中一貫教育基本方針は、山直南小学校や山滝小学校、山直北小学校といった個別の学校ではなく、市全域で、小学校と中学校の連携を発展させた小中一貫教育を実施するというもの。</p> <p>岸和田市において、学力やいじめ等の問題行動についての、学校規模による相関関係はみられない。</p> <p>なお、全国学力テストについては、詳細な結果と分析をホームページに掲載しており、また、現在会議を重ねている、小中一貫教育推進会議の議事録も掲載しているので、ご覧いただければ幸い。個々の学校のデータは、様々な影響、課題があることから公表していない。</p> <p>学力向上や、問題行動の抑制についての重要性は理解しており、これまででも現場教員と協力しながら、様々な取組を行ってきたが、結果が見えにくい状況。今後も、市全体で取組を継続していくが、その中の一つが小中一貫教育である。</p> <p>自然豊かな環境を活かした授業展開については、適正規模・適正配置の取組や小中一貫教育に関わらず、続けていくべき取組だと認識している。</p> <p>また、教員が情熱・愛情を持って子どもたちに接することは、最も大切なことだと考えている。教育委員会としても、特に若手教員に対しての積極的な研修活動や話し合いを行い、地域の子どものために熱意を持って取り組めるように努めている。</p>
2	11.28(日)	山直南	発言者A	<p>小規模校ではクラブ活動の多様性が確保できないというが、小学校ではどうなのか。集団競技はそれぞれに必要な人数が揃わなければならないことは事実だが、そもそも運動場が一つでは無理があるのでは。指導者も揃わない中、クラブ活動の面ですべてを充実させるのは難しいと思う。</p> <p>先日、堺市の美原西小学校が、合唱の全国大会に出場したと出ていた。この学校は約180人の児童数で、合唱部は26人。4～6年生で混合編制されているという。小規模校においても、工夫によって充実したクラブ活動を実施している。岸和田市の適正規模校においてはどうか。</p> <p>岸和田市のスポーツ面では、岸城中学校がソフトボールで立派な成績を収めていると聞くが、小学校でそういった話を聞かない。</p>	<p>小規模校において、中学校の部活動や、小学校のクラブ活動に制限が生じることは事実。教員を含めた指導者不足の課題により、選択肢の拡大も簡単ではないと認識しているが、子どもたちに充実した部活動・クラブ活動を提供することをめざしていきたい。</p> <p>また、小規模校における部活動やクラブ活動の中にも、優れた成績を収めているものがあることは認識しており、好事例については参考にしていく。</p> <p>なお、スポーツ面で優れた成績を収めた小中学生については、スポーツ振興課が表彰を行ってきたところ。地域のクラブ活動においても、日々頑張っている子どもたちがいる。今後も各方面と連携しながら、さらなる発展に努めていく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
3	11.28(日)	山直南	発言者A	<p>岸和田市は「たくましい子どもをつくる」としているが、これは新自由主義的な考えである。そういった方向性で教育を進めていくのは、遅れているのではないか。現代では、自然と共生できる人づくりが必要だと考える。</p> <p>過去、司馬遼太郎著の「21世紀に生きる君たちへ」という本を山直南小学校へ寄付してきた。その中では「たのもしい人」になるべきとしているが、岸和田市の言う「たくましい人」というものは、肉体的に頑丈で、精神的に勇猛で、戦いに勝つ強い人間になれとされているように思う。勉強ができない子どもの尻を叩き、泣いている子どもには強くなれとすることではいけない。優しく、自立し、人を助け、最終的には人から信頼される、たのもしい人になるべきと、司馬氏は言う。東大阪市教育委員会では、市内全校にこの本を配布したと聞く。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
4	11.28(日)	山直南	発言者B	<p>山直南・山滝校区において人口が増えない要因は、市街化調整区域にあると思うが、これは解除されないのか。</p>	<p>主には市長部局のまちづくり推進部が、今後の土地利用について検討を重ねており、教育委員会としても、本日のご意見をお伝えするとともに、将来にとって望ましい形を検討していきたい。</p> <p>なお、国全体としては、市街化区域の拡大という方向性はあまりみられないが、岸和田市としての方向性については、十分に関係課と協議していきたい。</p>
5	11.28(日)	山直南	発言者B	<p>山滝中学校を卒業した。中学校で野球をやりたいかったのだが、グラウンドが狭くてできなかった。現在の中学校グラウンドを拡大しようとしても、それは困難だと思う。</p> <p>なのでどうして、山滝中学校を移転先に設定しているのか。</p>	<p>現在の山滝中学校に（仮称）山滝小中一貫校を設置する場合、グラウンド面積も国基準をクリアしている。</p> <p>なお、それで十分とは言えないので、利用率の減少と老朽化が課題となっている山滝プールや、現案において閉校予定の山滝小学校について、今後の状況を見極め、地域の皆様のご意見も伺いながら、条件が整えば、活用も考えていく。</p>
6	11.28(日)	山直南	発言者B	<p>これまで長きにわたり山直南校区で暮らし、納税してきた。山直南小学校を廃校にするということは、この校区から出ていけと言われてるように感じる。</p> <p>山直南小学校には、他校区と違い、未だにプールもない。その上で廃校ということは、地域の納税者として非常に残念であり、考え直していただきたい。</p>	<p>市民の皆様から取められた税金については、行政として市全体を見通しながら、より望ましい使途・方策について検討していく。</p> <p>現在の実施計画（案）を策定するにあたっては、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に鑑みた上で、中学校区を適正化の単位としたものである。</p> <p>今回はたたき台としてお示ししているが、より良い方向性を見出すため、校区ごと2回開催の地域説明会だけではなく、今後も話し合いを重ねていきたい。</p>
7	11.28(日)	山直南	発言者B	<p>校区に隣接する和泉市では、新興住宅が立ち並び、商業施設にも恵まれ、ホテルも建設されている。</p> <p>岸和田市は、本来堺市に次いで泉州の主となる自治体だと思うが、実際は遅れている。和泉市は発展し、泉佐野市は閑空がある。泉大津市でも高層ビルが建っている。</p> <p>いっそのこと、山直南・山滝校区も和泉市に編入してほしいと思うくらいに、遺憾に思っている。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組を通じ、より良い教育環境の整備と学校教育の充実を図り、子育て世代にとっての魅力向上に努めていきたい。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
8	11.28(日)	山直南	発言者C	包近町で2人の子どもを持つ保護者として、計画（案）が進むと3年後に通学先が変わるということに納得がいかない。	<p>計画（案）について、何年度までにどの学校を開校するといった具体的時期は定めていない。</p> <p>協議を重ね、地域の皆様から一定の合意が得られた段階で、（仮称）学校開校準備委員会を設置し、開校に向けた様々な事項を検討していく。開校までは、準備委員会設置後5年程度が必要だと考えている。</p> <p>なお、現在の計画（案）どおり進めば、包近町の児童は小学校のうちから（仮称）山直小学校へ通学することになるが、22日の説明会において、包近町や山直中町の児童も（仮称）山滝小中一貫校へ通学、といったご意見があり、それらも踏まえ、今後地域や保護者の皆様と協議を行い、より良い案を策定していきたい。</p>
9	11.28(日)	山直南	発言者C	<p>過去、少人数の学校が学力面で望ましいといったことを文科省が示していたように思うが、今回の取組はそれと矛盾するのではないか。学校を閉校にしたいがための後付けだと思うがどうか。</p> <p>子育て世代としては、伝統ある学校を守るということもそうだが、それ以上に、我が子がどのような学校へ行くことになるのかに関心を持っている。</p>	<p>1学級あたりの人数については、少人数が望ましく、現在も国において、順次35人学級編制を拡大しているところ。</p> <p>一方で、今回の取組で示す規模は、学校全体の児童生徒数を表す学校規模であり、学級あたりの人数である学級規模とは異なる。</p> <p>学校規模の大小と、学力テスト結果の高低における相関性は、岸和田市においてはみられないが、学校ごとの具体的な学力や、いじめ等問題行動の数については、公表が困難であり、ご理解願う。</p>
10	11.28(日)	山直南	発言者C	やはり学校を減らして小中一貫校にしていくための後付けではないか。	岸和田市小中一貫教育基本方針については、現在も各中学校区で実施している小中連携教育を発展させた小中一貫教育を、仮に施設一体型小中一貫校が設置された校区や、従来の分離型小・中学校の校区に関わらず、市全体で実施していくものである。
11	11.28(日)	山直南	発言者C	<p>現在岸の丘町ゆめみヶ丘では大規模な住宅開発が行われているが、住宅メーカーと話していないのか。最寄りの学校が開校されるとなれば、住宅の売れ行きに影響が生じる可能性が高い。</p> <p>また光明小学校は、過去学年2クラスの学校だったが、市街化区域であり、大規模な住宅開発を経て大規模校に至った。教育委員会だけで進めるのではなく、市長部局と横の連携を取る必要がある。ただ子どもの数が減ったから学校を減らすということではいけない。</p> <p>今後の人口減少を踏まえると、山直北小学校や山直中学校だって先々はわからない。さらに子どもの数が減るので、久米田中学校と統合するといった可能性もあるのでは。</p> <p>こういった計画にどれだけ反対しても、強行されるのではないかと危惧している。</p>	<p>適正な学校規模として示している12～18学級は、国の手引や岸和田市の審議会答申、アンケート調査等、様々なことを踏まえて設定した目安ではあるが、すべての学校を機械的に12～18学級の規模にするというわけではない。</p> <p>各学校の規模や配置バランス、通学環境、地域コミュニティに加え、これまでの学校のあり方も考慮する必要があるため、今回は中学校区単位での適正化を提示している。</p> <p>なお、適正化を実施した後の学校で数十年が経過し、再び適正化が必要な学校規模に至った場合は、その時点で再びこのような計画が持ち上がる可能性は否めない。</p> <p>その時点においても、子どもたちの教育環境が最優先であるということを念頭に置きながら、物事を総合的に鑑みたと提示することになると考えている。</p>
12	11.28(日)	山直南	発言者D	<p>本来は、各校区における現状と課題、小規模校と大規模校の良さを対比する形で資料に明示することが望ましいと思う。</p> <p>また、こうした取組を一気に進めるのではなく、どこかでモデル的に実施することが望ましいのではないか。</p>	【ご意見として承る】

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
13	11.28(日)	山直南	発言者D	<p>教育を最優先にした取組ということだが、学校がなくなれば、地域が分断され、崩壊してしまう。そこに住民のより良い生活は生まれない。地域の教育は、地域で支え合いながら伸びていく。学校教育だけが教育ではない。</p> <p>過去通っていた中学校は24学級あり、不良もいたが、教員も竹刀を持って指導をするような学校であった。一方で担任の教員はそうではなく、思いやりのある大人になるように、と度々仰っていた。</p> <p>両親が教員で忙しく、父は毎晩遅くに帰ってくる中、参観に来てもらうこともなかったが、その中でも自分の心の中には、勉強がすべてだということにはなかった。</p> <p>小中一貫校になれば学力が向上し、人間性も増していくというような言い方をするが、人間力をつけていくことが教育。</p> <p>過去には、岸和田市内での夜間暴走行為を、多くの青少年が見に行っていたが、岸和田市の教員は何をしていたのか。地域では青少年指導員の方々が市民の立場から子どもたちの健全育成に取り組んでいる。こうした市民レベルでの関わりが大切。</p> <p>豪華な校舎が必要だとは思わない。分校扱いにして、校長1人で掛け持ちしてもよいのではないか。経費削減にもなるだろう。</p> <p>市内の学力向上については、私学を呼び込むといった努力をしてもよいのでは。公がすべて担う必要はないと考える。</p>	<p>学力だけが、子どもたちに必要な力だとは考えていない。岸和田市では知・徳・体、調和のとれた人づくりを教育の基本理念としており、コミュニケーション能力や体力も重要だと考えている。</p> <p>学校・地域間の連携は大切だと考えており、暴走行為を例にしても、毎週土曜日の夜に、教員が地域の皆様とともに国道26号線沿いを見回ってきた経緯もある。それ以外にも様々なお力添えをいただきながら、教育を実践しており、それぞれの学校において、地域の皆様に支えられながら、子どもたちの生活が成り立ってきたことに感謝している。</p> <p>この計画（案）をたたき台として協議を重ねていく中で、仮に小学校が閉校となった場合に、これまで小学校区を単位としてきた市民協議会等、地域コミュニティのあり方については、地域の皆様が主体的に判断されることだと考えているが、行政としても、そのサポートに努めていく。</p>
14	11.28(日)	山直南	発言者D	<p>当事者である子どもの意見を聞かずに、大人が勝手に決めていくということではいけない。</p> <p>孫が山直南小学校に通っている。年中までは地域の保育所に通っていたが、早生まれということもあり、生活発表会のような同学年で行われる行事では端の方で先生と手をつないでいるような状態であったが、あるとき本人に意思を確認したところ、「皆と一緒に発表したり、ダンスをしたい」ということをハッキリと言われた。それを機に、山直南幼稚園に転園し、今は元気に小学校に通学している。</p> <p>子どもの成長は即席でできるものではない。小規模校なりの良さがあり、子どもがそれを選択できる権利があってもよいと考える。</p>	<p>今回の実施計画（案）は、市域全体を見渡し、子どもたちの教育環境にとって何が望ましいのかという協議を重ねた上で、責任を持ってお示ししているもの。一方、確定した計画ではないため、今後、地域や保護者の皆様との話し合いをしっかりと行っていく。</p> <p>また、小規模校にも良いところがあることは認識しているが、小規模が故に生じる課題の方が多くはないかと考え、取組に着手している。</p>
15	11.28(日)	山直南	発言者E	<p>この資料は教育委員会が策定したということだが、児童生徒数の話だけでなく、学校がなくなった場合に地域がどうなるか、学校がなくなったら人が減り、高齢化が進む中で農地も荒地になっていくというデメリットも考慮しているのか。</p> <p>この資料が市議会にもたたき台として示されていくのであれば、デメリットも踏まえての議論が必要だと思うが、今後校区ごとのデメリットも記載していくことを検討しているか。</p>	<p>実施計画（案）を取りまとめたのは教育委員会である一方、市長部局と常に情報交換を行いながら策定してきた経緯があり、市議会や、地域の皆様に示すにあたっては、市長と特別職も参加する「政策決定会議」での承認を経た、市と教育委員会からの案としてご理解願う。</p> <p>一方、22日の説明会においても、地域への非常に大きな影響が生じるとのご指摘を多数いただけてきたところ。</p> <p>今後、地域説明会でいただいたご意見を、取組の課題とされるものも含め、覆い隠さずに情報公開していく。</p> <p>また、それらに対する教育委員会の考え方も公開し、今後の協議内容も含め、総合的に判断いただく材料を提供していく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
16	11.28(日)	山直南	発言者F	<p>この校区は、小学校ができる前から各地に寺子屋があり、教育熱心な地域であった。その後、小学校として山直南小学校と山直北小学校ができた。双方ともに岸和田市政より長い歴史を誇る。また過去には稲葉城が存在したように、城下町として発展してきた歴史がある。</p> <p>山直南校区の山直中町と包近町は、当初久米田中学校が通学先だったところ、山直中学校の創立により、通学先が変更され現在に至るが、山直南小学校の卒業式では、卒業証書を授与されて教室へ戻ると、皆泣いている。友達と別れる辛さがあるからであり、それは現在まで続いている。</p> <p>そんな中でも、地域では山直南小学校に通って良かったと思ってもらえるように努力している。学校だけが教育の場ではなく、子どもを育てるのは地域である。幼稚園や学校における行事にも、地域が協力している。そんな中、地域を分断する計画が進めば、小学校を中心としたまちづくりが崩れてしまう。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組が、地域に大きな影響を与えるということは承知しているが、教育委員会としては、教育の観点で物事を考えることが前提となる。</p> <p>仮に学校が閉校となった場合の、地域活動のあり方と、どのようにサポートに努めていけるのかという点については、今後もしっかりと考えていくが、そもそも学校がなくなることには反対だというご意見もあると思う。そういったご意見をいただいていることも、包み隠さずに議会や市民の皆様にも広く公開し、判断を仰いでいきたいと考えている。</p>
17	11.28(日)	山直南	発言者F	<p>この地域は住みよいまちであり、岸の丘町においても275軒の住宅完成が見込まれる中、現在は60軒で200人ほどが住んでおり。未就学児は63人いる。今後、まちが完成すれば、500人ほど子どもが増える見込みであり、教育委員会が示す数値とは大きく異なる。</p> <p>このように、この地域は岸和田市の中心になる地域である。浜手は発展しない。これからは山手が発展していく時代になる。</p> <p>実際、岸の丘町には多数の工場があり、雇用が生まれている。今後、約1500人の雇用が生まれ、住宅地には約1000人が住む。生活利便エリアにもスーパー等が誘致され、さらに雇用が生まれるとともに、お客さんも来る。また、今後はバスも通るなど、利便性が高まっていく。</p> <p>岸の丘町住宅エリアにおいては、小学校が山直南小学校、中学校は山滝中学校が通学区域だと教育委員会と契約したのに、突然山直南小学校を廃校するという。住宅会社は今後さらなる販売を行っていかねばならないのに、風評被害が生じている。</p> <p>これから人が増えていく地域なのだから、山直南校区に中学校を持ってくるべきである。子育て環境としても素晴らしい地域の学校を廃校にし、地域をつぶすとはどういうことか。市としても、人口を増やす方策を進めるべき。毎月人口が減る中、このままでは廃校だらけになる。岸和田市を発展させるためには、人を増やす必要がある。</p> <p>都市中核地域の学校も子どもが減って、統合の対象になるということは、市がそれだけ何もしていないということ。昔は賑わっていた商店街も寂れている。教育も大切だが、子どもを育てる地域の発展を本気で考えてもらわなければ困る。和泉市は山手地域でも発展している。</p> <p>教育委員会だけでなく、市全体として、市をどのように発展させていくのか考えなければいけない。意見があればまとめ、また話す機会を設けてもらえればと思うが、山直南小学校は廃校にさせない。</p> <p>岸の丘町の住宅を購入した住民から相談も来る。高いお金で住宅を購入した人に対して、どう説明していくのか。まちづくりを総合的に判断すれば、山直南小学校を廃校にはできないと思う。</p>	<p>地域の開発に関する厳しいご意見については、22日の地域説明会でいただいたところ。</p> <p>岸和田市が、市の発展や人口増加に関して何もしてこなかったわけではなく、今回の改革以外にも、例えばインバウンド拡大により経済を活性化しようというものや、まちづくりの魅力向上に向けたものなど、様々な取組を行ってきた。</p> <p>ただ、それが不十分で、効果が出ていないというご指摘については、しっかりと受け止め、市長部局ともに対応していく。</p> <p>なお、小規模校において、きめ細かな教育ができるということは事実だと考えているが、学力テストという僅かな尺度だけをみても、学校規模と学力の相関関係が明確でない。</p> <p>一方、きめ細かな教育や支援を必要とする児童生徒がいることも事実。これについては教育委員会の責務として、学校規模に関わらず、しっかりと対応していく。</p> <p>また、冒頭申し上げた「主体的・対話的で深い学び」の「対話的」とは何かということについてお話しすると、近年、日本社会は世界の潮流に翻弄される中、大きく変わってきた。以前は地域の中で経済活動が完結し、地域の中だけで生きていくことが可能であったが、現在は日本国内だけでなく、世界において、世界の人々とともに活躍していかなければならない時代となってきた。</p> <p>さらに、以前では、敷かれたレールに乗れば、一生暮らしていくことが可能であったが、現在は、レールに乗っていれば安定が確保されているという時代ではなくなった。</p> <p>文科省で示される「主体的・対話的で深い学び」では、様々な意見に触れ、様々な考え方を取り入れ、ともに良い答えを見出していくことで、将来にわたり生きる力をつけることに重きを置いており、それを踏まえ、一定の学校規模で様々な意見に触れる機会を創出することが、今回の取組の趣旨であることにご理解いただきたい。</p>
18	11.28(日)	山直南	発言者G	<p>仮にこの計画（案）が通ったとして、（仮称）山滝小中一貫校は現在の山直南小学校と同程度の規模になる。小規模校の課題については複数提示しているが、どう解決していくのか。解決できるのであれば、山直南小学校でも解決できるだろう。</p>	<p>（仮称）山滝小中一貫校では、市域全体から通学できる、特設校制度の導入を検討している。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
19	11.28(日)	山直南	発言者G	教育委員会の職員に対して、個人的な考えで良いので、この計画（案）が通った場合に岸の丘町に来たいと思うか尋ねたい。	個人的な考えを表明することは、控えさせていただく。
20	11.28(日)	山直南	発言者G	特認校制度を導入したとして、何人程度が集まるのか。それで適正規模に至るのか。至らないのであれば、どの学校でも一緒ではないか。	<p>現在、東葛城小学校において特認校制度を導入しており、全校児童69人のうち23人が特認校制度を利用している児童である。</p> <p>（仮称）山滝小中一貫校で特認校制度を導入した場合に、校区外から入学する児童生徒数を見込むことは、現状では困難だと認識している。</p> <p>適正規模にまでは至らないものと考えているが、今回の計画（案）策定にあたっては、各学校の規模や配置バランス、通学環境、地域コミュニティを総合的に鑑みた上で、中学校区を単位に適正化を進めていくことが望ましいと考え、お示ししている。仮に中学校区を超えて適正化を実施するとすれば、より大きな影響が生じる可能性があると考えている。</p>
21	11.28(日)	山直南	発言者H	<p>そもそも、物事の順番が逆だと考えており、まずは山直南地区の人口をどう増やしていくか、という話ありきで進んでいく必要があると考えている。市の都市計画に基づき人口を増やしていく中で、教育委員会が教育のあり方を考えていく、いわば教育委員会が主ではなく、従の姿勢であるべきだと考える。一方で、今回は完全に主として、様々な影響を与えている。</p> <p>稲葉町と山直中町では、自身の身を切って新たに岸の丘町をつくり、市街化調整区域から外してもらった。要は地域を発展させるために活動してきた。これを教育委員会が邪魔しにきているのはいかがなものか。</p> <p>人口減少については以前から問題視している中で、岸の丘町立ち上げに協力してきた。我々は人を増やそうとしているのに、地域を衰退させようという教育委員会の案に対し、非常に遺憾。</p> <p>前回の説明会でも質問されていたが、計画（案）を出す前に、地域に対して話を聞きに来たのか、と。実際はそうせずに、何の相談もなく案を策定して、岸和田市全体に見せた。こんな阿呆なことはない。</p> <p>また、4月には稲葉町会で集めた反対署名を持って、教育長を訪ねた。ちなみに、稲葉町民は1200人程度いる。そのほぼ100%が反対だと言っている。我々の背中には稲葉町民の総意が乗っている。それを踏まえてきちんと考えるべき。地域の総意として反対している中、山直南小学校をつぶせるのか。</p>	<p>本日いただいたご意見も含め、これまでいただいたご意見についてはしっかりと受け止め、今後市長部局とともに対応していく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
22	11.28(日)	山直南	発言者I	<p>天神山町から来た。山直南小学校は、数年後に適正化対象規模から外れるのではないかと考えている。</p> <p>天神山町を例に挙げると、40数年前に1270世帯のまちとして完成し、天神山小学校にはピーク時で730人の児童がおり、学校全体で21学級であった。この数字を岸の丘町に適用すると、ピーク時で140人程度の児童が山直南小学校に通うことになる。全国的にカップルの数が減り、合計特殊出生率が減っていることから、もう少し少なくなる可能性はあるが、岸の丘町に住む人の多くはカップル。カップルが生む子どもの数は2.1人とされるので、約500人の子どもが増える。ただ、一度に増えるわけではなく、恐らく小学校で市が言う100人程度から、120人程度の児童が通うことになる。</p> <p>教育委員会は、40人ないし35人学級を想定している中で山直南小学校は適正化対象規模で推移するとしているが、現在岸和田市は35人学級を下回る少人数学級を要求しており、文科省も30人学級を望んでいる。</p> <p>そうなれば、山直南小学校は全学年2クラスの適正規模校になる。そうした考えはないのか。</p>	<p>現状からは、今後岸の丘町において100人強の小学生が増加すると見込んでいる。一方、地域の皆様からは500人ほど子どもの数が増加するとご意見があったところ。今後の協議において、教育委員会の推計値と、地域の皆様が想定する数字を突き合わせながら、しっかりと見極めていく。</p> <p>なお、今回の取組においては学校全体の児童生徒数である学校規模の確保を主眼に置いており、学級あたりの人数である学級規模については、今後も引き続き少人数化の要望を行っていくが、学級編制基準の変更は市が決めるものではなく、国がすぐに判断を示すものでもない中、不確定な事実をもとに計画を策定することは好ましくないと考えている。現段階で確実な事実及び推計値を基に、計画を策定していくことが必要だと考えている。</p>
23	11.28(日)	山直南	発言者J	<p>中学生と未就学児の保護者としては、通学問題を最も懸念している。例えば稲葉町から山滝中学校までは2km弱、小学生にも同じ距離を歩かせることはいかがなものか。スクールバスを出すと言っているが、そういった制度を導入するにしても、小中一貫校ありきというのはどうか。山間部においては、より適正な配慮の仕方があるのではないかと思う。</p> <p>通学環境のことを考えると、今の山滝中学校に、山滝小学校と山直南小学校、東葛城小学校を統合した小学校を設置し、今の山直南小学校に中学校を設置することで、3校区の子どもたち全員が通えるという案なら、分断につながらないのではないかと思う。</p>	<p>安心安全な通学環境の確保は、教育委員会として最優先すべきことであるため、どのような形になっても、優先して取り組んでいく。</p> <p>いただいた具体的な案については、ご意見として承り、今後地域や保護者の皆様と協議を行っていく。</p>
24	11.28(日)	山直南	発言者J	<p>この計画（案）は、市長が替わればなくなるのか。</p>	<p>教育委員会会議における決定事項であるため、仮に教育長が替わったとしても、計画（案）は変わらないが、教育委員全員が交替した場合は、変わる可能性がある。</p> <p>市長や教育長を含む特別職が参加する、政策決定会議における決定事項でもあるため、市としての判断として、議会にも説明する。よって、市長が交替するだけで自動的に廃案になる、変更される、という性質のものではない。</p> <p>いずれにせよ、最終的な判断を行うのは、市民の皆様であり、その代表である市議会となる。</p>
25	11.28(日)	山直南	発言者K	<p>市長が替われば、この話はなくなると聞いたことがあるのだが。</p>	<p>大きなインパクトとはなり得るだろうが、自動的に廃案になるものではない。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
26	11.28(日)	山直南	発言者L	<p>手続的に、この計画を最終決定するのは教育委員会なのか、それとも市長なのか。以前は議決事項ではなく、議会が最終的に決定するものではないと聞いたと思うが、最終的な責任者が誰になるのか教えてほしい。</p>	<p>手続きには三段階あると考えている。</p> <p>まず、皆様のご意見を伺う中で、この案を大きく修正する場合、教育委員会自らが修正し、市長を経た上で議会へ説明する、ということが1つ目。</p> <p>次に、教育委員会として、この案が教育環境上望ましく、変更できないと判断したが、市長部局の立場から、市民生活に対する課題が多いとされた場合、市全体の会議で見直す判断になる、ということが2つ目。</p> <p>最後に、教育委員会と市長部局が合意の上、議会に提案する場合、関連予算の議決権は議会にあるため、そこで否決を受けた場合、この計画は頓挫もしくは修正を余儀なくされることになる、ということが3つ目となる。</p>
27	11.28(日)	山直南	発言者L	<p>包近町と山直中町は、現状の計画（案）でいけば、（仮称）山直小学校に通うことになる。</p> <p>先日、泉州山手線の延伸が予定され、都市計画が見直される中、三田町と岡山町は市街化区域に、包近町と山直中町は市街化調整区域のままになるだろうということで、そういった市の方向性と、教育委員会の校区再編が逆方向ではないか、と意見を述べた。</p> <p>資料の13ページで、将来の山直南小学校の推計値を記載しており、これによれば、今後も山直南小学校では全学年1クラスとある。岸の丘町の児童数の話も多々あるが、仮に、包近町と山直中町の児童が引き続き山直南小学校に通えば、210人を超える児童数が想定され、複数学級を確保できる学年もいくつかできてくると思う。</p> <p>これを踏まえると、山直南連合を真っ二つにし、包近町と山直中町の児童が地域性の異なる（仮称）山直小学校に通うのではなく、両町の児童も山直南小学校に通い、それに加えて岸の丘町の児童数増加を考えると、未永く200人を超える学校規模を維持でき、学年あたり2クラスということも夢ではないと思う。</p> <p>今回見直しを実施したとしても、さらに人口減少と児童数減少が続けば、また再編計画が持ち上がるかもしれないと言っているが、今のような通学区域にすれば、さらなる見直し時期も先に延びるなど、安定した学校教育を実施できるように思う。</p> <p>前回の最後に、教育長も説明会会場の雰囲気ショックを受けたと話していたが、説明会に参加した住民の厳しい意見については、声の大きい反対派だけの声ではなく、各町会を代表して反対意見を述べているのだと思っている。</p> <p>今後も説明会を開催するのだと思うが、本日の意見を含め、真摯に受け止めていただき、前向きな形で臨んでいただきたい。</p>	<p>地域の皆様のご意見を伺いながら、これまでの都市計画や土地利用が考えられてきたものだと思えている。</p> <p>本日はあくまでも「案」としてお示ししているものであり、この説明会が議論のきっかけ、スタートだと考えている。</p> <p>今いただいた具体的な通学区域案については、本日聞いて終わりということではなく、さらに突き合わせて、内容を吟味していく必要がある。今後もより良い計画の策定に向けて話し合いを重ねていく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
28	11.28(日)	山直南	発言者L	<p>ホームページのQandAの中で、中学校の立地条件は概ね妥当なので、見直すつもりはないような回答があった。本日の答弁でも、中学校区まで見直すと、別の問題が生じて、今以上に困難な状況になってしまうという懸念を示していたが、11中学校が設置された時点と、現在とでは社会状況も異なる。</p> <p>山直北小学校区と城東小学校区を足した人口は、この60年間で約2.3倍に増加している。一方、山直南小学校区では13%程度増加、山滝小学校区では約30%減少している。このような人口増減がある中、なぜ中学校の立地条件を見直すつもりがないのがわからない。そういった紋切り型の見直し、頑なな姿勢を取り下げた上で、小・中学校区を含めて、どういった適正化が望ましいのかを検討いただきたい。</p>	<p>中学校区を超えて適正化を実施するとすれば、さらに大きな影響が生じるということは、事実として捉えている。</p> <p>現状の計画（案）から変更の余地がないというわけではないが、現時点においては、中学校区を単位とした適正化が望ましいと考えている。</p>
29	11.28(日)	山直南	発言者M	<p>山直南校区では、子育て世代の方々が、自分が育った山直南小学校に子どもを通わせたいがために、親と同居したり、実家近くに家を建てたり、また岸の丘町に家を建てたりして、この地域に住んでいる。そのことを知っているか。</p> <p>学校は子どもたちが主役だが、地域の皆の学校でもある。だからこそ、大切に思い、このように集まっている。校歌にもあるように、子どもたちには大きな未来が待っている。</p> <p>親と同居したり、実家近くに家を建てるということは、市が推奨していることだと思う。それを実証しているのが、山直南校区だと自負している。</p> <p>皆が、この素晴らしい小学校を好きで通わせているという気持ちを汲んでいただきたい。岸の丘町での新たなまちの息吹を感じ、これからどんどん大きくなっていくまちを見守っていただきたい。</p>	<p>地域の皆様が、子どもたちを支えてきていただいていることは承知している。ご意見として受け止めていく。</p>